

モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード 2017 授賞者決定


カーフリーデージャパンは、この度、モビリティウィーク&カーフリーデー2017におきまして、移動に関する様々な問題を考える機会を市民へ提供し、新しい都市交通政策の展開を進展させるため、「モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2017」として、まちづくり貢献賞、イベント・プロジェクト賞、市民向けアピール賞、カーフリーデーベストショット賞を設け、以下の通り決定致しました。

モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード 2017

目的

- 各団体が行うモビリティウィーク&カーフリーデーについての取組を讃えます
- 各団体の取組の評価を行うことで、今後の取組への更なる意欲昂進に期待します
- 日本におけるモビリティウィーク&カーフリーデーの質的向上をねらいます
- 他団体や一般市民の関心を集める機会とします

授賞団体

1. まちづくり貢献賞
松本市ノーマイカーデー推進市民会議
2. イベント・プロジェクト賞
豊橋市
3. 市民向けアピール賞
横浜カーフリーデー実行委員会
4. カーフリーデーベストショット賞 
別紙（3点）



審査委員

- 委員長 太田勝敏（東京大学名誉教授）
委員 上岡直見（環境自治体会議 環境政策研究所）
委員 望月真一（EMW日本担当コーディネーター）

審査結果について

「モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2017」審査会は、平成29年12月5日に、一般社団法人カーフリーデージャパン事務所内にて行われました。「モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2017」各賞の授賞理由、講評の概要は、以下の通りです。

1. まちづくり貢献賞

松本市ノーマイカーデー推進市民会議

授賞理由：

松本市ノーマイカーデー推進市民会議は、今年で14年目の参加である。

今年も、例年通り、モビリティウィークでは、人通りの多い松本駅東西自由通路や銀行のギャラリーでモビリティウィークや交通まちづくりに関するパネル展示を行い、ノーマイカー通勤を統一実施するなど、市民への周知・啓発に努め、最終日のカーフリーデーに臨んだ。

カーフリーデー当日は、昨年同様、メインストリートでのトランジットモールの実施(大名町通り、中町通り)、周辺道路でのカーフリーエリアの創出(緑町通り、高砂通り、縄手通り)により、松本城周辺が、クルマから解放された人と環境にやさしい都市空間となった。そこでは、地域住民・団体等による様々な企画が実施され、各通りで特色のある賑わいが演出され、多くの市民や観光客に、楽しみながら、クルマ優先社会について見直す機会を提供した。

モビリティウィークは、交通を切り口に、環境や都市、コミュニティ、生活など幅広いテーマについて、行政・市民が一緒になって考えようという趣旨だが、今年の松本市のモビリティウィークは、1)人や環境にやさしい交通への取組み(公共交通、自転車、徒歩、モビリティマネジメント、自動車の賢い使い方)、2)地域資産の再認識(観光)と移動、3)低炭素社会にむけた地域住民・団体との協働において、精力的に取り組んだことが高く評価され、まちへの貢献度が高いことから、まちづくり貢献賞に値するとした。

※トランジットモール：自動車の通行を制限し、公共交通(バス等)だけが通行可能な歩車共存道路

他の応募団体：1団体

さいたまカーフリーデー実行委員会

講評：

さいたまカーフリーデー実行委員会は、今年は台風の影響で、予定していたメインイベントのカーフリーデーが中止となり、大変残念であった。しかし、例年、2日間カーフリーエリアを設けているため、メインイベント前日には、カーフリーエリアを創出でき、継続的な啓発ができたことが第一に評価された。また、今年は、新しく、アートを通じてノーマライゼーションを呼び掛けている団体と協働して、展示や啓発に広がりをもせたり、県道大宮停車場大成線の整備について、官学民による展示・紹介、アンケートを行うなど、市の交通政策にモビリティウィークを活用したことなどが、高く評価された。しかしながら、今年は、様々な取組みで進展をみせた松本市ノーマイカーデー推進市民会議の取組みに授賞することにした。

松本市ノーマイカーデー推進市民会議の具体的な評価事項 [今年度新規の取組み]

人や環境にやさしい交通への取組み

①継続的なトランジットモールの実施（大名町通り（2012年～）、中町通り（2016年～））

大名町通りのトランジットモールは、バス通行時に道路を区分するカラーコーンの数を年々減らしており、プランターを使用することで、歩行者への圧迫感を減らした。中町通りでは、コミュニティバスのタウンズニーカーの運行時間外を、昨年よりも活用して、交通安全教室やダンスの発表が実施された。

②周辺道路のカーフリーエリアの創出（縄手通り、緑町通り、高砂通り）

周辺の生活道路が市民に開放され、より安心・快適な都市空間となった。また、沿道の有志店舗等による出店などにより、様々な催しが行われた。

縄手通り…ソーラー発電のパネル展示、啓発物品の配布

緑町通り…新鮮市（野菜、果物、きのこなどの販売）、キッズサイクル、松本山雅フットボールクラブとのコラボ企画（マスコットキャラクターのまち歩き等）

高砂通り…ジャグリングの実演・体験、水ヨーヨー配布、沿道の有志店舗による出店

③パークアンドライド駐車場の設置

松本合同庁舎に臨時のパークアンドライド駐車場を設置した。

④人と環境にやさしい交通手段の啓発

公共レンタサイクル「すいすいタウン」の新車両展示・貸出、今年8月から増便となったタウンズニーカーのPRとアンケート調査、今年から主催団体へ加入したタイムズ24株のカーシェアリングPR、市民歩こう運動・まちを「歩こうBIZ」プロジェクトなどを実施した。

地域資産のPR

① 地域資産のアピール

「クラフトビールフェスティバルin 松本」が今年中止になったことを受け、会場でクラフトビールを販売したり、松本の美味しい氷の試飲ブースを設置するなど、カーフリーデーを活用して、地域資産をアピールした。

②外国人観光客対応

外国人向けのまちなか案内ボランティアや外国人向け日本文化体験デーなどを実施した。

地域住民・団体との協働

従来に比べて、今年は、カーフリーエリア、トランジットモール内でのイベント・展示において、様々な団体と協働した。特に、今年は、大学生のイベントへの参画（外国人向けのまちなか案内ボランティアスタッフ）や、地元松本山雅フットボールクラブとのコラボ（マスコットキャラクターのまち歩き等）により、イベントの充実化が図られた。



カーフリーデー当日のカーフリーエリア案内図（チラシより抜粋）

2. イベント・プロジェクト賞

豊橋市

授賞理由：

豊橋市は、今年で5年目の参加になる。

豊橋市では、従来、未来を担うこどもたちに焦点をあて、親子連れを主な対象として、施設内（こども未来館にここ）での啓発を中心に行ってきたが、今年初めて、カーフリーエリアを創出し、路上でのイベント実施に至った。そこでは、集客力の高いイベント「豊橋歩行者天国」が同時開催され、多くの来場者に、カーフリーデーを周知することができた。

また、今年は、モビリティウィーク1週間の取組みを意識し、充実化を試みた。特に、新しい取組みだったのが、愛知県と静岡県の間境周辺の事業者に対してのモビリティマネジメント（自家用車から公共交通等への通勤を呼びかけるため、市で啓発チラシを制作（地元プロバスケットチーム「三遠ネオフェニックス」の選手を起用）、とよはし健康マイレージとの連携（期間中の公共交通等利用にボーナスポイントを付与）、図書館公共交通フェア（豊橋中央図書館にて公共交通や自転車の書籍や絵本を特集する展示ブースの設置や読み聞かせの実施）で、幅広い層に啓発できた。

最後に、こうした取組み内容が充実した背景には、市内の横断的な連携や大学・地域団体との協働に尽力がうかがえたことも、今後のモビリティウィークの発展・活用（将来的な交通施策との連動）が期待されるとして、高く評価された。また、毎年、取組みの充実を目指し、他都市のカーフリーデーを研究するなど、担当者の積極的な姿勢も評価された。

他の応募団体：3団体

横浜カーフリーデー実行委員会、松本ノーマイカーデー推進市民会議、京都カーフリーデー実行委員会

講評：

今年は、モビリティウィーク全体として大きな進展がみられた豊橋市を選定したが、他応募団体についても以下の通り、評価された。

横浜カーフリーデー実行委員会は、民間主催でありながら、長年、カーフリーエリアを創出し、多くの市民に、交通だけでなく、環境・健康・まちづくりなど様々な啓発活動を実施していること、さらに今年は、自転車利用促進やバスの事故防止、地域資産（三溪園）のアピールにおいて、新しい取組みがみられたことが高く評価された。

また、同じく、民間主催の京都カーフリーデー実行委員会も、例年、官学民の様々な関係者との協働を図りながら、地域ならではの課題や国際観光都市としての課題に対して、新しい取組みを行い、今年は、御苑内ではあるが、車両通行止めを行うなど、精力的な活動が高く評価された。（なお、今年は、あいくの台風でメインのカーフリーデーが実施できなかったため、来年度に期待したい。）

松本市ノーマイカーデー推進市民会議は、総合的な評価としての「まちづくり貢献賞」に選定したため、対象外とした。

3. 市民向けアピール賞

横浜カーフリーデー実行委員会

授賞理由：

横浜カーフリーデー実行委員会は、今年で、14年目の参加である。

幼いころから交通に関する知識・理解を深めることが重要と考え、例年、子どもたちへの普及啓発に力を入れている。

そのため、教育委員会を通じて、近隣6区の小学校へ四万枚ものチラシを毎年継続して配布していることが、第一に、市民団体の活動として高く評価された。実際に、カーフリーデーでは、子どもが楽しめる催しが行われるだけでなく、子どもたちの様々な活動の発表の場や、交通や環境について考えるブースを提供しているため、毎年、多くの親子連れが参加しており、市民への継続的なアピール度が大きく、認知度が向上している。

また、例年、市営地下鉄の駅構内（関内駅・伊勢佐木長者町駅）でのポスター掲示や、市営地下鉄・市営バスの全車両でポスターが中吊りされるなど、事前の周知が徹底され、この数年は、カーフリーデーのポスターやチラシを、地元のデザイン専門学校（横浜デザイン学校）に公募で依頼することで、若い学生たちへの啓発も行っており、若者層の参画もみられるなど、地域住民を広く巻き込んだ精力的な活動が高く評価された。

他の応募団体：1団体

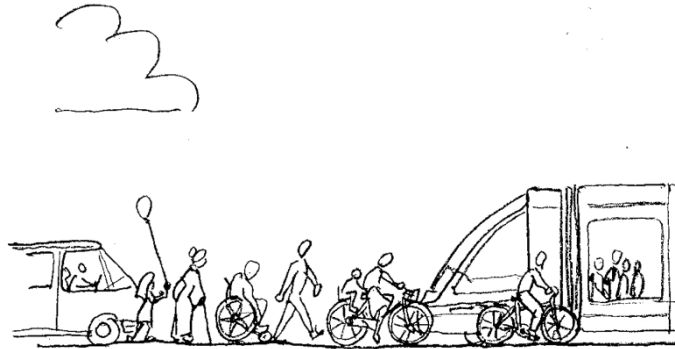
松本市ノーマイカーデー推進市民会議

講評：

松本市ノーマイカーデー推進市民会議は、総合的な評価としての「まちづくり貢献賞」に選定したため、対象外とした。



カーフリーデーベストショット賞決定！



Sketch by Mochizuki Shinichi

この賞は、各団体が今後の取組を展開するにあたり、広報活動において役立ててもらふことと、カーフリーデーに参加する一般市民に楽しんでいただくことの両方を意図して設けました。

各参加団体より沢山の応募がありました。応募写真は計13枚。

各都市より、それぞれ特徴のあるカーフリーデーらしい風景が集まりました。

選考の結果、以下の3枚に決定いたしました。

2017.12.5

一般社団法人カーフリーデージャパン
〒171-0031 東京都豊島区目白2-3-3
ゴム産業会館1A



さいたまカーフリーデー 2017

「カーフリーデー全景」：さいたまカーフリーデー実行委員会
カーフリーデーのメイン通りの全景です。



横浜カーフリーデー&モビリティウィーク2017

「車道を減らし、歩行者のための空間をもっと増やそう!」：澤村 慎吾さん
公共交通の利便性の向上・利用促進を訴え、マイカーの交通量を減らし、道路空間を歩行者や自転車とシェアしよう!



2017 松本ノーマイカーデー

「交通安全教室 in 蔵シツク館前」：深澤 靖恵さん

中町通りの蔵シツク館前では、子ども向けの交通安全教室が行われました。中町通りの雰囲気と、子どもたちが交通安全教室に参加する様子がマッチしていました。